

新製品やロボ研削を提案

ニューレジストン社長 山内憲司氏



は訪問が難しいユーザーを中心にサンプルを送付している。しかしながら、特にブルーセラックオフセットタイプやNRS超硬バーのように特色ある製品は、直接ユーザーとコミュニケーションしながら提案するのが一番だ。今年7月の国際ワエルディングショー(JIWS)では、これらの新製品をメインに据えてピーアールしたい。

2020年度は国内製造業の停滞により厳しい1年となったが、今年度は持ち直しつつある。本年も回復基調が続く見込みだが、半導体・部材不足により自動車の減産が続くなど、ユーザーの稼働は力強さを欠いている。こうした中でも砥石需要が増えている分野もあり、動向を敏感にキヤッチして拡販につなげていきたい。

研削ロボットに関する出展も予定している。研削作業のロボット化は依然としてニーズが高いが、ロボット・ツール・砥石それぞれの特性を考慮して構成する必要があり、特有の課題だ。JIWSでは砥石メーカーの視点から、ロボット化の事例を交えつつ課題解決の提案を行いたい。

同時に、ユーザーに当社の砥石を知ってもらうこと、情報を届けることの重要性も改めて感じる。昨年は「ブルーセラックオフセットタイプ」や、新形状の「NRS超硬バー」を発売した。なるべく多くのユーザーに試してもらえるよう、まず

近年はグローバル市場が高度化する一方、そのリスクも顕著になってきた。当社としては、国内ユーザーのニーズを汲み取る姿勢を大切にし、情報収集、企画・開発、販売・情報発信のサイクルをスピード感を持って回していきたい。

現場の訪問が制約さ